

# 3月に対話式提案競技

## クリーン DBO方式 期間20年

府市、11日に  
PFI実施方針

山口県防府市は、PFIを導入するクリーンセンター整備・運営事業の実施方針と要求水準書案を11日に公表する。2008年1月に特定事業として選定し、同年3月に対話方式を採用した公募型プロポーザルを公告する。1次の書類審査で数社に絞り込み対話した上で、9月に提案書の提出を求める。10月に優先交渉権者を決め、09年3月に事業契約を結ぶ。

事業方式はDBO（設計・建設・運営）方式を採用する。契約後は、13年3月末までに建設し、33年3月までの20年間、運営・維持管理する。アドバイザリー業務は日本総合研究所・復建調査設計・西村ときわ法律事務所グループが担当している。

プロポーザルでは、1次審査で参加者を絞り込み、市が事業の方針などを説明した上で提案書の提出を求める。書面で質問を受け付け、文書で回答する方法

は、発注者側の意図がうまく伝わらないことがあるため、対話により事業者の事業への理解を深め

審査は、審査委員会が価格と技術提案を基に総合評価点を算出し、最高得点者を優先交渉権者と

施設は、老朽化の進むクリーンセンター（新田364）内にある一般廃棄物処理施設を建て替えて、再資源化施設を備えたリサイクルセンターとして整備する。選別施設とバイオガス化施設、焼

棟、ストックヤードなどの建設を想定している。規模や形式、生成物の有効利用先は、自由な提案を求める。

現在のゴミ処理施設の処理能力は、1日当たり180トで、プラントはストーカ炉（90ト×2炉）を使用している。現破砕施設の処理能力は1日当たり50ト。

建設地は、現クリーンセンターの隣接地を予定している。